

はじめに

日本人が、海外留学することもなく、英会話スクールに通うこともなしで、ネイティブ（英語を母国語にする人々）並の単語力をつけ、英会話を完全にマスターすることは可能です。

本書がお伝えするいたってシンプルな練習さえくり返せば、あなたにも、日本語と同じように英語が自然に聞き取れ、語彙力不足を感じずに英会話ができるようになる日が必ず来ます。そして、今よりもっともっと楽しい人生がやってくる（p.008～011の「導入」を見てイメージしてください）。

あなたが目指すのは、『単語耳』を使った**1日30分前後**のレッスンで、**半年後に「英語耳」の基礎**を身につけ、**1年後には英米人と自然な日常会話ができるようになり**（TOEICのリスニング満点レベル）、**2年後には大学卒の英米人同等の語彙力を備えた「完全な英語耳」を獲得**することです。

本作の利用を、**中学1年生から高齢者、TOEIC／英検1級受験者から趣味で英会話を楽しみたい方にまで**幅広くおすすめします。本作でこつこつレッスンすれば、誰もが、真にストレスのない英語生活をいずれ必ず送れるようになります。この方法こそが英会話マスターの最短手順です。練習開始から2週間目以降、めざましい成果をどんどん実感できるでしょう。

●日本人はなぜ英会話が苦手で、英単語をすぐ忘れるのか？

日本人は、英会話に出てくる英単語の音を、日本語のカナ音（すべて、英語の発音とは似て非なる音です）に置き換えがちです。それは、意味不明な音の羅列から、なんとか日本語の音を認識し、意味をとろうとする脳の工夫であり、癖でもあると言えます。あなたの脳はそうやって、日本語圏で暮らすために最適化されているわけです。

そのせいで日本人は、but [bʌt]とbat [bæt]を「バット」、heart [hɑːt]とhurt [hɜːt]を「ハート」と、音を区別せずに記憶しがちです。これはあなたの脳が出来なせいでなく、日本で暮らすための脳の工夫なのです。

英会話の達人になるには、この工夫——脳の癖を、打破せねばなりません。でないと、英会話の際、音だけから but と bat、heart と hurt を区別できないため、前後の文脈からどちらの単語かを判断せねばならなくなり、結果として、英会話のスピードについていけない事態に^{おちい}陥るからです。

あげく、単語暗記の際に「正確な発音」など気にしない人が少なくありません。たとえば、子音 [s] を、10m 先まで聞こえる澄んだ正しい音で出せる日本人は1割にも満たないのです（多くの方が、「自分は [s] ぐらい発音できる」と勘違いしていますが）。そうした「正確な発音」抜きでは英会話には役立ちませんし、意味とスペル中心で暗記しただけでは、記憶もすぐに頭から消えがちになります。

● 『単語耳』 実践編 Lv.1～4 のレッスン内容

よって本書ではまず「理論編」で英会話の達人になるための方法を学んだ後、**中学1年生～高校1年生レベルの英単語 1000 語**を使って、**英語の子音・母音の発音を徹底練習**します（実践編^{レベル}Lv.1）。その過程で、英単語 1000 語を「正しい発音」で記憶できますので、この段階であなたのリスニング能力は格段に進歩するでしょう。実は、「正しい発音」で単語を暗記すると、一生忘れがたい記憶として脳に焼き付きます。自分の名前が言えなくなった認知症（ボケ）の老人の方なども、昔習った歌だけは歌える例が多いそうです。「音」には記憶を確かにする効能があるのです。

続けて本作品では、**英単語にくり返し出てくる 56 の音のパターン**を、**TOEIC 800 点レベルの 2000 語**を使って記憶します（実践編 Lv.2）。本作では、この英語固有のパターンを「**黄金の 56 パターン**」と名付けました。英単語を、この 56 パターンの組み合わせとして聞き取れるようになると、なんと 5 万語でも 10 万語でも英単語を発音・リスニング可能になるのです。

この核となる「黄金の 56 パターン」は、基本的には「音節（一口で言える子音・母音のかたまり）」の音です。この 56 パターンを、日本人も最初に脳内に入れておくべきです。その後で、その 56 パターンの組み合わせとして英単語を記憶していけば、手っ取り早く、ネイティブと同じ脳内語彙空間（脳の中に単語を整理してしまっている配置の仕方）を構築できるからです。

ネイティブと同じ脳内語彙空間を築いてから単語暗記をしていくと、英会話の際に、どのような英単語も即座に脳内で検索可能になります。つまり、音から意味がパッと特定できるようになるのです。実践編 Lv.2 でそのような能力を身につけた後で、**実践編 Lv.3、Lv.4** では、**正しい発音と語源・語根の知識**を使った練習で**各 2500 語**の単語を覚えてしまいます。

これにより、ネイティブ同様に、会話の際に英単語を引っ張り出しやすい構造で、脳に膨大な英単語群を整理・収納していけます。『単語耳』の実践編をこなせば、ネイティブの脳の構造をそのままあなたの脳にトレース（転写）でき、“大学卒の英米人” 同等の単語力を身につけられるのです。

そう、この実践編 Lv.1~4 こそが、**ネイティブ並の英会話力を身につける最短コース**の正体です。

●本作『単語耳』の4つの効能

本作『単語耳』の主な効能をまとめると、下記の4点になります。

① 単語力不足を一気に解消

本作では、英会話に必要な十分な英単語 数万語相当（実践編で学ぶ 8000 語により、それだけの効果が出ます）をイッキに、「正確な音」とともに整理・格納した脳をつくります。前述のように、ネイティブの脳内で単語の「音」がどのように配置されているか、それを主に実践編 Lv.2~4 の誌面でお見せし、あなたの脳にそのままトレース（転写）するわけです。

「音」を使って記憶すると、単語を一生忘れなくなります。そして、本作で一度脳にネイティブ同等の語彙空間を構築してしまうと、英語に触れるたびに単語がどんどん脳内に整理・格納されていきます。これが2年後、5年後、10年後のあなたの英語力を大幅に伸ばす結果となります。ぜひ一刻も早く、本書でレッスンを始めてほしいゆえんです。

② 統合された、シンプルな学習ができる

“英文を読む／書く／聞く／話す／単語を暗記する”を、もれなくすべて別々に学習する必要がなくなります。それらを統合した、効率の良いシンプルな学習方法がわかります。具体的には、本作での学習（「音」を使った英語学習）を主軸に据えればいわけです。「理論編」をご一読ください。

③ 集中していなくても英会話を理解可能になる

あなたは英会話の際、相手の発音をすみからすみまで聞き取らねば、と、がんばっていませんか。ネイティブはそんな努力はしていません。いい加減に聞いていても、相手の会話内容をちゃんと聞き取れる省エネ術を自然と体得しているからです。

そうなれる秘密は、前述の「黄金の56パターン」にあります。本作で、英会話を何時間続けても疲れなくなる、省エネ術のコツを体得できます。

④ 洋書の文意を素早く理解でき、「音」も聞こえるようになる

英語を文字で見た場合、音で聞く場合よりも素早く理解できるようになります（そうやって初めて、苦もなく英会話ができるのです）。そして英文を読んだ際に、その「正しい音」も聞こえ出し、読書でリスニングの練習ができるようになります。本作のレッスンにより、辞書を引かずともたいのペーパーバックは読破できるようになりますので、英語の読書が楽しくなり、どんどん英会話力も伸びていくでしょう。

●さらに進化し、効率的になった「英語耳メソッド」

お陰様で、発売から約2年で25万部を売るベストセラーとなった拙著『英語耳』には、「中学1年生に使わせたらリスニングの点が急激に上がった！」という初心者の方の声から、「TOEICで900点の壁を破れずにいたが、『英語耳』のおかげで英語の聞こえ方が変わり、950点とれた！」という中級者の方の声まで、概ねたいへんな好反響をいただきました。

しかし、私は同時に、「なぜ、『英語耳』で練習しても、“完全な英語耳”まで到達できない人が多いのだろう？」という事実を目の当たりにすることにもなりました。

『英語耳』執筆時には、「とにかく日本人は英語の子音・母音の正しい発音を知らない」という思いが強かったのです。そこで、そうした点を強化する、英語の音への入門書として『英語耳』は制作されました。

ところが、英語の子音・母音が発音できるようになっても、必ずしも単語を発音できるようにはならない人、文章をすらすら発音できるようにはならない人がいます。

実は、「完全な英語耳」をつくるには、子音・母音の正確な発音に加え、

「音節」の発音のコツを習得する必要があるからです。人により、『英語耳』で音節発音のコツまで習得できる人と、挫折してしまう人がいるのです。私はこのことに心を痛み、何とかしたいとずっと考えてきました。

私は1500人以上の学生の発音指導をしてきましたが、英語の「音節」の音を記憶できた学生は、英語の習得が早いのです。逆に、「音節」の音を記憶できない学生は、英語の習得が思うように進まないと感じました。

文章を発音してもらおうと、英語の「音節」を記憶できているかいないかが手に取るようにわかります。そして発音を指導すると、すぐに真似して修正できる学生と、ぜんぜん真似できない学生の区別がとてもはっきりしています。各生徒の英語の成績も、そのときの印象通りでした。

そのため、本書では新たに、英語特有の、よく使われる音のかたまりを使った練習を組んでいます。これで、よりらくに「音節」を発音するというハードルを越えられます。英語の「音」をより記憶しやすくなると同時に、より確実に語彙を脳内に焼き付け、単語力をつけることができます。

前著『英語耳』は、英語の発音を日本語のカタカナに置き換える癖を打破し、英語の子音・母音の正確な発音ができるようにみなさんを変えるために書かれています。これからも、春に入学する中学1年生やこれから英語を再学習する大人の方々に、永遠に使い続けてほしいと願っています。

いっぽう本作は、全4冊(Lv.1~4)と『英語耳』よりボリュームがありますが、その分、『英語耳』よりじっくり親切に、そして最終目標である「完全な英語耳」にまで誰もがらくに進める作品に仕上がっています。

レッスン内容はシンプルそのものですので(ほとんど頭を使う必要はありません!）、慣れてしまえば、練習が楽しくなってくるはずです……特に、得られる成果を考えあわせてみるならば!

これぞ、“完全な英語耳”、そして“英米の教養人並の単語力”への最短コースなのでから。

英語が苦もなく聞けて、話せる世界へようこそ。
さあ、始めましょう!



理論編

ここでは「単語耳」づくりのための、さまざまなノウハウや考え方をお伝えします。

「実践編Lv.1」(p.111～)で付録CDを活用した発音練習を進めながら、それと並行して、この「理論編」を毎日少しずつ読み進めてください。(もちろん最初に読破してしまってもOKです)

第1部 英語耳づくりの旅へ、船出しよう！

この9カ条を心に刻めば、目標は達成可能

まず、英会話学習を開始する前に、英会話をマスターした自分を強くイメージすることから始めてください。具体的なイメージができると、願いはかないます。

リラックスしていても英語を聞き取れる、何時間でも英会話ができる状態が、「完全な英語耳」の状態です。それはとても楽しい状態です。

たとえば、そばでテレビがついていてCNNニュースが英語で流れているとします。

それまで別のことをしていたあなたの耳に、興味あるニュースがふと入ってきます。

体と顔をテレビのほうに向けて聞き入ると、アナウンサーの話す英語がすべて意味を持って頭に入ってきます。

ニュースがひととおり終わって再び今までやっていたことに戻ると、テレビの声は意識の上から消えます。

でも、無意識に英語の音声は聞こえているのです。ふたたび興味ある話題が聞こえてくると、テレビのほうを振り返り、聞き入ることができます。

翌日、友人とその海外ニュースが話題になります。あなたは友人よりもずっとそのニュースに詳しいので、友人に「どこで聞いたの？」と聞かれます。確かにテレビで見たのだけれど、日本語で聞いたのか英語で聞いたのか意識していなかったことに気づきます。

このような「完全に聞き取れる」状態は、フィクションではありません。あなたがこれから到達しようとしている目的地なのです。

本書は、その目的地に着くまでの地図であり、ガイドとなってあなたを目的地まで案内します。

なぜ挫折するの？

日本人の多くが英会話の習得に失敗・挫折する理由は、以下の2つだと私は考えています。

- ① 英会話の学習効率が悪い。いくらやってもキリがないやり方をしている。
- ② 魅力的で達成可能な、納得できる目標が無い。

みなさんは「英語をマスターした状態」を夢見て英語の学習を始めたはずです。でも、それがどんな状態か、そしてどんな手順でそこへ達すべきか、具体的に言えますか？ 実はたいていの場合、目標や方法論があいまいすぎて、せっかく英語を勉強してある程度読めるようになって、次に何をしたらよいかかわからないまま英語から遠ざかる人が多いのです。“迷子になる”とはこういうことです。あなたにぴったり合った目標と、着実にステップアップしていける学習方法が必要です。

海外留学経験があり、一般に“高い英語力を持つ”と言われる人も、コンプレックスをかかえて迷っています。彼らもまた、語彙ごいが足りない、ペーパーバックがすらすら読めない、電話でうまく話せない——などなど、さまざまな課題を抱えたままです。

多くの方は特に、「語彙の不足」と「完全には聞き取れない」ことに悩まされています。そして、「自分には無理なのだろう」とほとんどの人があきらめているというのが、英語学習難民の実像です。

英語を学習してきたほとんどの人が、辞書を引き引き英語を読むことはできて、「うまくは聞き取れない」のです。

ですが、普通のスピードの英語を自然に聞き取れるようになると、英語に触れることが楽しくてしょうがなくなります。その段階で、英語学習上の障害は、かなり解消され、別世界ひらが拓けてきます。

そのように「完全に聞き取る」ためには、単語をたくさん知っていて、文章を苦もなく読めることが前提です。しかしそう思わず、「完全に聞き取る」ようになるには、「ただひたすら毎日英会話を聞き続けることが必要」